

競進社模範蚕室の外観的特徴



正面から見た競進社模範蚕室

競進社模範蚕室は養蚕を伝習するための専用の蚕室で、外観は一見して平屋に見えるが、中二階建て下屋付きの和風建造物である。屋根の上に高窓（越屋根・ヤグラ）が4つ乗るのが大きな外見的特徴となっている。

建物の規模は桁行（家の横の長さ）21.7メートル、梁間（家の奥行き）6.9メートルの規模である。

大きな特徴の一つの高窓は、内部が4部屋に分かれており、各部家毎に一つずつ高窓が乗る。高窓は建築用語では越屋根といい、地域により「ヤグラ」といったり「天窓」といったりしている。換気用の施設である。島村の田島弥平旧宅のように棟の端から端まで延びる「総ヤグラ」と呼ばれるものから、小型のものを複数乗せたり、大きさの違うものを乗せたりとバリエーションが多い。当然ながら、建物の規模が大きくなると高窓の数や大きさも大きくなっている。



模範蚕室を側面から見ると左右が対称に見える形をしている。建物の南側と北側に下屋をだし、その内部は廊下となっている。主屋根と下屋の屋根の間が狭いが、ここに明かり取りの欄間が設けられている。北側の廊下は南側より幅が狭いので、下屋の屋根も少し小型となっている。

屋根には鬼瓦に相当する瓦に競進社をあらわす競の彫刻がなされていて、丸瓦にも同様な彫刻がある。

また、各部家の外側には石製のスロープが設けられ、建物の東西面には南北に合計4ヶ所出入り口があって、作業性の向上に寄与している。模範蚕室は全体的に柱が少なく、南面及び北面とも壁が少なく、特に上簇期には雨戸や障子を取り払うと極めて広大な開口部が得られる構造となっていて、個々にも優れた作業性を持つ工夫がなされていることがわかる。

